



# 第6期中期経営計画 2024-2026 PROACTIVE 皿

一新たなステージに向けた挑戦・

#### 2024年6月10日

PROACTIVEとは、前向き、先見的を意味する用語です。 国際社会、日本社会の変化に対応していくためには、 東和薬品グループという会社および社員が将来に起こりうる変化やリスクを予測し、 あらかじめ必要な対策を打つことが重要であると考えています。

### 本資料の構成

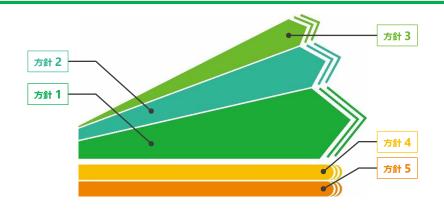
01 第5期中期経営計画(2021-2023)の振り返り

02 東和薬品グループの目指す姿

03 第6期中期経営計画(2024-2026)

01 第5期中期経営計画(2021-2023)の振り返り

### 取り組み結果



#### 方針 1 コア事業としてのジェネリック医薬品事業の進化

- ・2021年度から2023年度の3年間で、30成分65品目を上市
- 初めてのオーソライズド・ジェネリックとして、エルデカルシトールカプセル 0.5µg/0.75µg「トーワ」を製造販売開始
- 製造販売承認書の齟齬点検に加えて、現場へのヒアリング調査や MESやLIMSの運用を通して、東和薬品における信頼性確保の取り 組みを実施
- 関西出荷センターと関東出荷センターを開設し、稼働開始
- 140億錠体制が完成し、175億錠体制にむけて山形工場の生産能 力増強のための建設丁事が完了(山形丁場 第三固形製剤棟)

#### 海外市場での拡大と成長 方針 2

- 現在、39カ国に進出(アジア、中東、オセアニア、欧州、アフリカ、北 米、中米など)
- ・エソメプラゾールカプセル製造所追加(Towa INTマルトレージャス工 場)に関する一変申請の承認を取得

#### 方針3 新たな健康関連事業への展開

- 三生医薬株式会社の株式の取得(完全子会社化)により、健康維 持・増進のための製品、サービスのさらなるラインナップ拡充に着手
- ヘルスケアパスポートの販売開始
- FOVE社 視線追跡型VRデバイス「認知機能セルフチェッカー」の本格 展開を開始

#### 技術イノベーションと製品価値の創出 方針4

さまざまな新技術を確立し、今後、製品へ実用化。

- 球形晶析技術を含む分子制御技術の確立により完全苦味マスキング の実現(原薬)
- Towa INTとの技術シナジーにより、効率的なコーティング技術の確立 (製剤)
- 連続生産技術の進展(山形丁場 第三固形製剤棟での実装に向け て基本構想が完成)
- 発がん性ニトロソアミン類の分析法の確立

#### 働きがいのある環境づくりと人財育成 方針 5

- 東和キャリア形成支援を開始
- ローテーションモデルを通じたキャリア形成支援やe-learningコンテンツ の拡充
- 新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、在宅勤務やテレワーク等のフ レキシブルな勤務体制の構築

## 計数目標振り返り①

#### 売上高

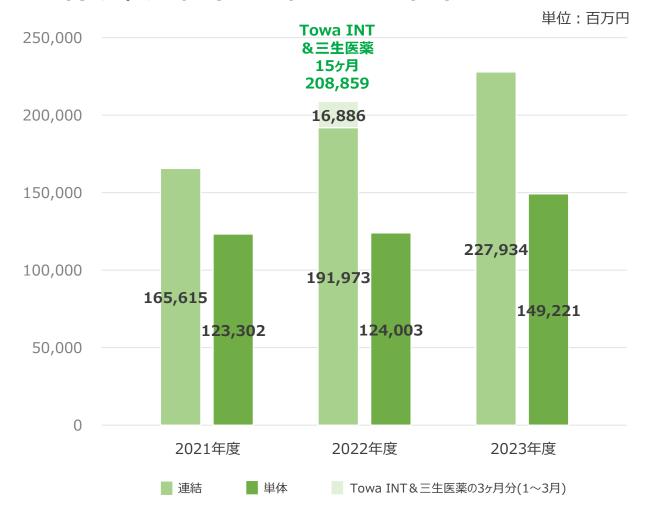
2,000億円達成 [連結] 1,500億円達成 [単体]

単年度の売上高の達成

[連結] 最終年度2,279億円 達成

[単体] 最終年度1,492億円 未達

#### 売上高 連結、単体(2021年度~2023年度)



# 計数目標振り返り②

#### 営業利益 (累計)

#### 365億円以上

持続的な成長のための投資 および株主還元のために、 期間累計の営業利益の達成

(累計) 424億円 達成

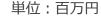
#### 配当政策

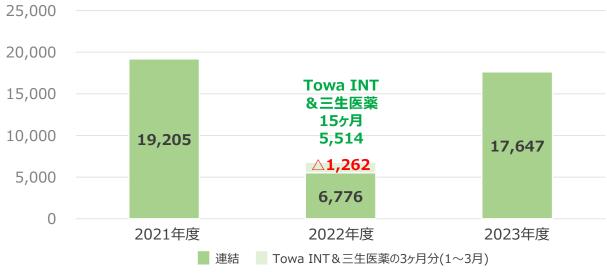
#### 安定配当の実施

安定的な配当を基本とし、 企業価値の向上を見据えた 株主還元を図る

#### 達成

#### 営業利益 連結(2021年度~2023年度)





### 配当(2021年度~2023年度)





■中間配当金 ■期末配当金

※2023年度期末配当額については、2024年6月25日開催の第68期定時株主総会において決定のため、予想額を記載

計数目標振り返り③

**%**1

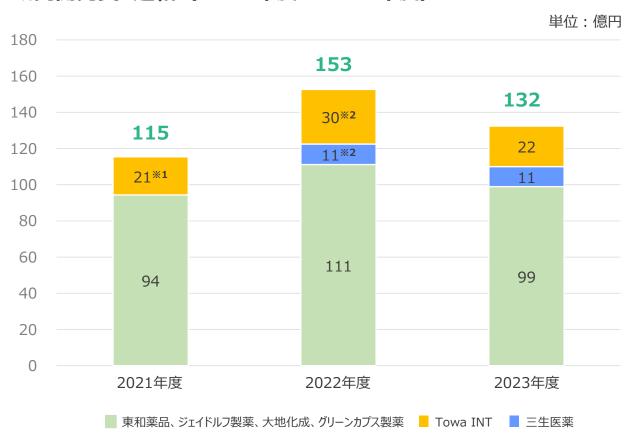
#### 研究開発費(累計)

#### 350億円以上

必要とされる製品の品揃えと、 医療機関や患者さんからの 要望に応える製品の改良・改善

### (累計) 400億円 達成

#### 研究開発費 連結(2021年度~2023年度)



※1: Towa INTの2022年3月期(2021年度)の連結会計年度は2021年1月1日~2021年12月31日の12ヶ月となっております

※2:2023年度よりTowa INT及び三牛医薬の決算期変更を行ったため、当該子会社の2023年3月期(2022年度)の連結会計年度は 2022年1月1日~2023年3月31日の15ヶ月となっております

## 計数目標振り返り4

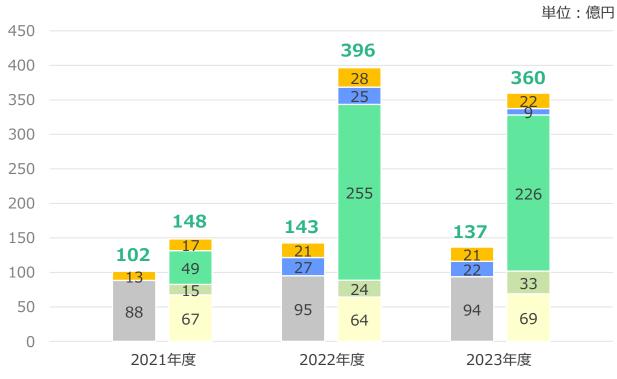
#### 設備投資(累計)

#### 750億円以上

品質保証体制、安定供給体制を 維持・強化するための生産設備 および研究開発機能の強化・効率化 への投資

### (累計) 904億円 達成

#### 設備投資費・減価償却費 連結(2021年度~2023年度)



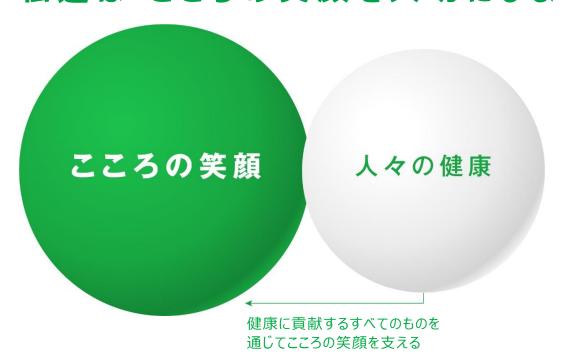
- ※設備投資費には有形固定資産・無形固形資産の取得を含みます
- ※減価償却費は研究開発費分を含みます
- ※2021~2023年度は減価償却費にTowa INTのれん償却費を含みません
- ※2022~2023年度は減価償却費に三生医薬のれん償却費を含みません
- ※2021年度は三牛医薬の実績を含みません
- ※Towa INTと三牛医薬の2022年度の連結会計年度は2022年1月1日 ~2023年3月31日の15ヶ月となっております
- 設備投資(Towa INT) ■ 設備投資(山形工場) 設備投資(その他)
- 減価償却費(三生医薬)

グラフ左 減価償却費 グラフ右 設備投資費 設備投資(三生医薬) 設備投資(岡山工場) 減価償却費(Towa INT)

# 02 東和薬品グループの目指す姿

### 企業理念

# 私達は 人々の健康に貢献します 私達は こころの笑顔を大切にします



東和薬品グループは、優れた製品とサービスを創造することによって、人々の健康に 貢献します。そして私達の企業活動を通して、

患者さん、医療関係者の皆様、地域社会をはじめとするすべての方々にこころから 喜ばれ、求められる企業を目指していきます。

# グループビジョン

# 健康の先の 未来を創造する

東和薬品グループは、健やかな身体、満ち足りたこころにより、よろこびが笑顔としてあふれてくる。 そんな「こころの笑顔」を大切にしています。

製品・サービスの提供を通じて人々が健康になることがゴールでなく、その先にあるそれぞれの人生 が素晴らしいものとなり、すべての人々が人生を謳歌できるような未来を届けたい。このような思い のもと、『健康の先の未来を創造する会社』をビジョンとして掲げます。

代表者

# 東和薬品グループの概要

吉田逸郎 (代表取締役社長)

### 東和薬品株式会社

所在地	大阪府門真市		社員数	3,519名		
主要事業	医療用医薬品の製造・販売		自社製品数	339成分781品目		
資本金	47億1,770万円		営業所数	70拠点		
(グループ化年度)       2024年4月時 <b>ジェイドルフ製薬株式会社</b> — 2003年度						
連結	大地化成株式会社	— 20	- 2010年度			
	グリーンカプス製薬株式会社	— 20	16年度			
-	九州医薬株式会社※	— 20	18年度			
-	Towa Pharma International Holdings, S.L.			Towa Pharmaceutical Eur	ope, S.L.	
	以下 Towa INTと表記	_	19年度	<ul> <li>Breckenridge Pharmaceu</li> </ul>	tical, Inc.	
	三生医薬株式会社 I■──────	— 20	21年度	Towa Pharmaceutical, S.	<b>4.</b>	
	株式会社カマタ	— 20	23年度	Towa Pharmace	utical S n A	
	株式会社サン・フレイルラボラトリ*	— 20	24年度			
非連結 #	「スクエアソリューションズ株式会社	— 20	18年度	Towa Pharmaceutical, S.A.		
7FJEND	株式会社プロトセラ	— 20	20年度	Pensa Pharma, A	AB	
※2024年度より連結対象会社へ追加 Pensa Pharma GmbH Pensa Pharma GmbH						

創業

1951年(昭和26年)6月

# 東和薬品グループ会社

#### 連結

#### **Towa INT**



大型造粒機を用いた大量かつ効率的生産の強み を活かしたB2Bビジネス拡大を幅広い事業地域で 展開。製品ポートフォリオの拡充によって、海外事 業の規模を成長させるとともに、東和薬品の製品を グローバル市場へ届けるための橋頭堡に期待。

東和薬品出資比率 100%

#### 連結

#### 三生医薬



ソフトカプセル製造において、国内有数の規模を誇 る製造キャパシティーを確保しつつ、培った製剤技 術は様々な業界へ応用することが可能。健康食品 CDMOとして継続的に成長しつつ、東和薬品グ ループの新たな健康関連事業の製品創出を期待。 東和薬品出資比率 100%

#### 非連結

#### Tスクエアソリューションズ

ヘルスケア関連のITサービス提供 東和薬品出資比率 66%

#### 非連結

#### プロトセラ

臨床検査薬の研究を推進 東和薬品出資比率 97%

#### 連結

#### ジェイドルフ製薬



大腸肛門科領域に特化しな がら国内市場を支えるとともに、 東和薬品グループの外用剤・ 液剤・固形製剤を製造。

東和薬品出資比率 100%

#### 連結

#### 大地化成



医薬品原薬の合成研究、製 造技術開発及び製造を行い、 東和薬品に安定的に原薬を 供給。

東和薬品出資比率 100%

#### グリーンカプス製薬

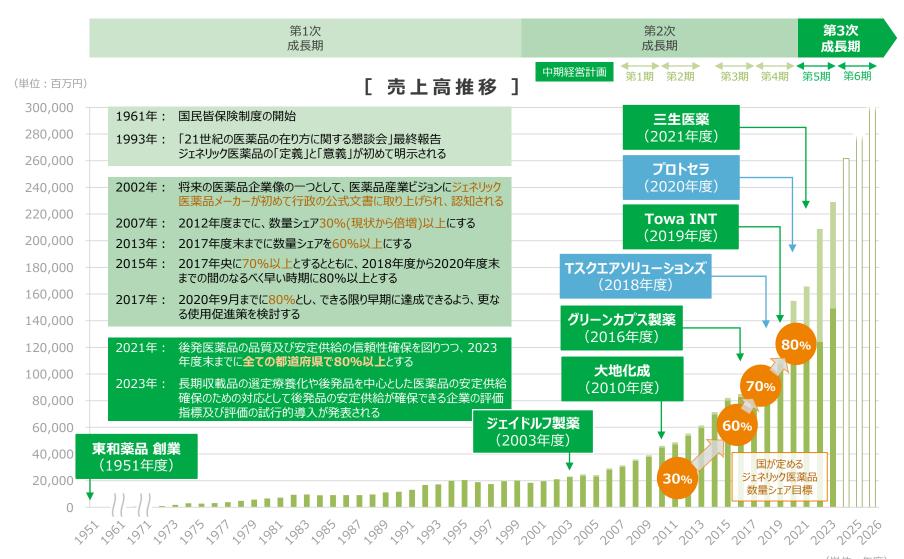
連結



高薬理活性のソフトカプセル OEM/ODMを強みとして、東 和薬品のソフトカプセル医薬 品を製造。

東和薬品出資比率 100%

# 東和薬品グループの歩み



# サステナビリティ方針



イノベーションを育む風土作り



3 一人ひとりを大切にする

働きがいを通した 社員の幸せの実現

多様な価値観の尊重







2 地球環境に配慮する

環境への配慮※





事業基盤を強化する

**PROACTIVE** 

製品・サービスを通した健康維持・向上の実現

安全·安心の 品質追求 つながりのある 地域社会への貢献





自律経営とシナジーの実現

コンプライアンス の徹底 コーポレートガバナンス の充実

ステークホルダーとの 信頼関係の構築

※環境への配慮の取り組みについては、有価証券報告書ならびに統合報告書に記載しております。

# 事業活動による価値創造プロセス

#### 企業理念

#### 強み

最新の技術で改良・改善を重ね、 東和品質を追求し続ける研究開発力

多品目生産においてたしかな製造管理 生産管理・品質管理体制を維持

高い品質と安定供給の実現に向けた 原薬自製化の取り組み

多品目かつ大量牛産を可能とする 生産能力と安定供給体制

■ニーズに即した独自の東和式販売体制

海外を含む新たな健康関連事業に つながるグループ会社を複数もち、 新たな技術や製品・サービスの実現

#### 国内 ジェネリック医薬品 事業

#### 海外医薬品 事業

新たな健康関連 事業

#### 提供価値

#### 直接的な価値

- 医薬品の安全・安心
- 医薬品の安定供給
- 医療費の削減と社会 保障制度の維持
- こころとからだの健康
- 医療アクセスの改善
- 付加価値製剤による アドヒアランス向上

#### 間接的な価値

- 産業競争力
- 地域発展への貢献
- 雇用の創出
- 豊かな社会
- 納稅

### サステナビリティ方針

# 来 を 創 造 す

健

康

の

先

の

未

# 03 第6期中期経営計画(2024-2026)

## 持続的成長に向けた本中計期間の位置付け

#### 第5期中期経営計画期間 (2021~2023年度)

医薬品の不安定供給という 国内市場の異常事態に対 して、生産設備への投資と 信頼性保証体制を強化

|海外の事業地域が拡大しつ つ、コロナ禍の収束にともな い、東和薬品とTowa INT との連携・協働が進展

三牛医薬を加えた東和薬 品グループの経営体制整備

将来を見据えた組織整備と 重要ポストの後継者育成

#### 第6期中期経営計画期間 (2024~2026年度)

#### 国内ジェネリック医薬品事業

|大きな転換期を迎える国内市場のなか、 世の中から信頼され、必要とされる企業とし ての成長

#### 海外医薬品事業

海外における事業地域のさらなる拡大を図 りつつ、競争優位性をもつ製品の多様化に 向けて取り組んでいく グループ財務バランスを考慮しつつ必要な 成長投資(研究開発・設備投資)

#### 新た众健康関連事業

継続的な事業探索と一定枠の投資 健康情報プラットフォーム構想の進展

#### 持続成長に向けた経営基盤の構築

継続した成長投資を行うために財務健全 性の確保

人的資本経営に求められる「経営戦略と 人事戦略の連動」の実現

#### 東和薬品グループの 2040年に目指す姿

国内外の垣根無く医薬品の製造販 売事業を展開している日本国発のグ Πーバルジτネリック医薬品企業

東和薬品グループの新たな健康関 連事業が社会からも認知され、グ ループ経営の柱として自立している

革新的だけでなく発展的な技術も含 めて、イノベーション創出の風土が醸 成・定着し、製品・サービスとして結 実している

|グループ計員に加えて、その家族、元 社員、地域社会など、身近な人々に まで"健康"と"こころの笑顔"の輪を拡 げることができている

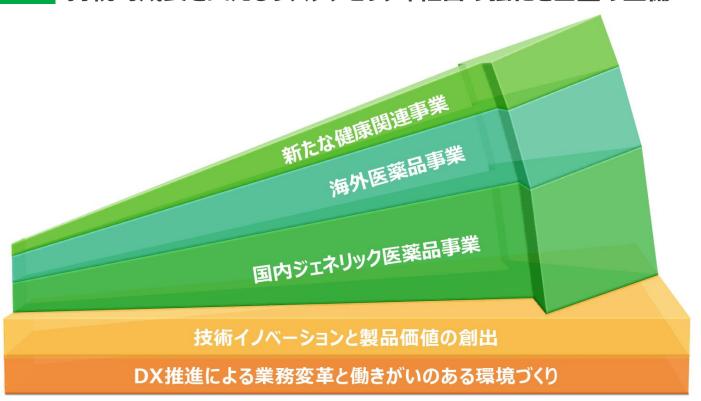
# 基本方針/キービジュアル

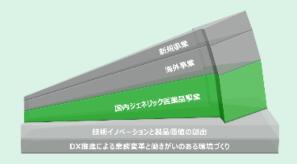
### 第6期 中期経営計画 2024-2026

方針1 国内ジェネリック医薬品事業の新たなステージに向けた進化

新規市場・新規事業の基盤確立とグループシナジーの実現 方針2

方針3 持続的成長を支えるサステナビリティ経営の強化と基盤の整備



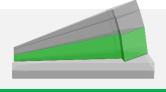


### 方針1

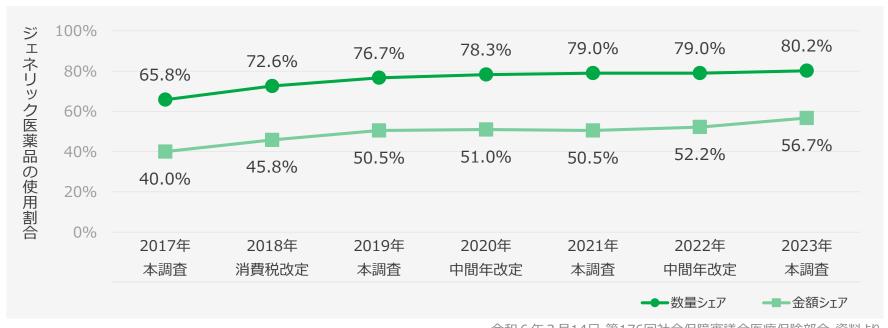
### 国内ジェネリック医薬品事業の新たなステージに向けた進化

- ▶ 国内ジェネリック医薬品を取り巻く環境の変化
- ▶国内ジェネリック医薬品事業の課題と取り組み
- ▶ 安定供給体制 ーサプライチェーンマネジメントの高度化ー
- ▶ 信頼性保証の維持と強化
- ▶ 製品ポートフォリオの拡充
- ▶ 情報開示の取り組み

# 国内ジェネリック医薬品を取り巻く環境の変化①



### 薬価調査における数量シェア及び金額シェアの推移



令和6年3月14日 第176回社会保障審議会医療保険部会 資料より

#### ジェネリック医薬品使用率

2023年度薬価本調査では数量シェアは80.2%となった。現行の後発医薬品の使用推進について、数量シェア目標は継続され、新たに金額シェア目標値が設定されることになった。(2029年度金額シェア65%以上)

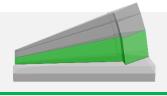
#### 長期収載品の選定療養

令和6年の診療報酬改定において、長期収載品の保険給付の在り方が見直され、選定療養の仕組みが導入された。長期収載品の選定療養の範囲は、後発品が上市されてから5年が経過した長期収載品又は、後発品への置き換え率が50%を超える長期収載品が対象となる。

#### バイオシミラーの目標値

バイオシミラーについて「2029年度 末までに数量ベースで80%以上 置き換わった成分数が全体の成 分数の60%以上」とする目標値 が設定された。

# 国内ジェネリック医薬品を取り巻く環境の変化②



複数の医薬品企業において、製造管理・品質管理上の不備による 医薬品医療機器等法(薬機法)違反が発覚し、業務停止などの 行政処分が実施された(製品回収・出荷停止が頻発)

製品回収等により、医薬品が出荷停止となり、同一成分の医薬品を 供給する製薬企業も限定出荷を行う連鎖が続き、結果として医療 機関・薬局に対し十分な供給量が確保できない事態が生じている

2022年

8月31日から開催 医薬品の迅速・安定供給実現に向けた総合対策に関する有識者検討会

2023年

7月23日から開催 後発医薬品の安定供給等の実現に向けた産業構造のあり方に関する検討会

— 中間とりまとめ公表 — **安定供給等の企業情報の可視化** 

2023年 10月11日

「品質が確保された後発品を安定供給できる企業が市場で評価され、 結果的に優位となることを目指す」ことが示された

2024年 1月17日 - 令和6年度薬価制度改革の骨子- 中央社会保険医療協議会

後発品を中心とした医薬品の安定供給確保のための対応として

「後発品の安定供給が確保できる企業評価のための指標及び評価の試行的導入」

企業評価のための指標

後発品の安定供給に 関連する情報の公表※など 後発品の安定供給のため の予備対応力の確保

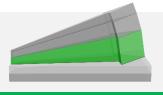
製造販売する 後発品の供給実績

薬価の乖離状況

※公開すべき情報提供の内容や判断基準等の考え方を基に企業より公表 (令和6年度前半に公表予定)

### 35 O XII - XIII E E I E (2024 2020)

# 国内ジェネリック医薬品事業の課題と取り組み



### 国内ジェネリック医薬品事業の新たなステージに向けた進化

### 安定供給体制の構築

- 医薬品を安定的に供給できる体制の構築
- 有事の場合に対応できる予備対応力の確保
- サプライチェーンの強靭化
- 生産能力・供給能力の向上
- 生産効率の改善や生産性の向上

### 製造管理・品質管理体制の強化

- 製造管理・品質管理体制の確保
- 安心・安全な医薬品の供給
- 適切な情報の開示・情報の発信

### 医薬品産業における社会基盤構築への貢献

- バイオシミラーを含めた品揃えの拡充
- 医薬品の安定供給体制構築に向けての企業連携

### 具体的な取り組み

#### サプライチェーンマネジメントの高度化

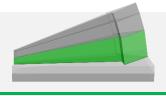
- 原薬調達への取り組み
- 生産能力/供給能力の向上
- 東和式販売体制の最適化
- 有事の場合に備えた対応(予備対応力)

#### 信頼性保証の維持と強化

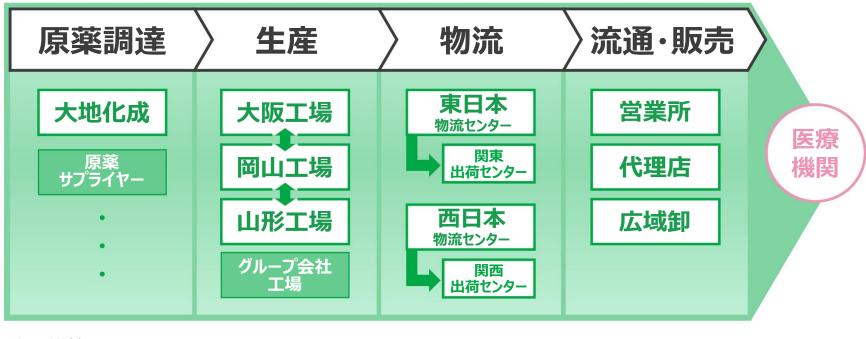
製品ポートフォリオの拡充

情報開示の取り組み

# 安定供給体制 ーサプライチェーンマネジメントの高度化ー



### サプライチェーン全体を可視化し、医薬品の安定供給体制を構築する



#### 体制構築に向けた取り組み

- 原薬の安定調達先確保
- ・ 最適在庫量の確保
- 原薬自製化
- 高活性原薬製造
- ・ 複数購買化の推進

- 生産管理 · 製造管理 · 品質管理の徹底
- ・3工場の役割分担
- 生産効率化の推進
- バックアップ体制の確立
- 適正在庫管理の強化
  - ・限定出荷品の削減
  - 供給状況の開示
- 28頁

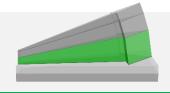
32頁

- ・東和式販売体制の再構築 27頁
- 最適な流通体制の構築
- DX活用による情報提供

28頁

23

### 原薬調達への取り組み



#### 原薬の自製化

合成プロセスを開発し、大地化成又は協力会社で製造することに より、外的要因による安定供給リスクを低減

#### 高薬理活性の原薬製造

抗がん剤等の高薬理活性医薬品の製造需要に伴い、 大地化成に高薬理活性物質対応の高度な技術を導入 した製造棟を建設(2024年8月竣工予定)

#### 製造所に対する監査体制

- 国内法令だけでなく、国際基準に準じた監査
- 技術専門家による監査(合成・理化学分析)

#### 出発原料・中間体を含めた複数購買化の推進

- ・ 当社が製造販売している製品に関わる原薬の複数購買率60% 以上を維持し、有事の際にも安定供給が維持できる体制を整備
- 出発物質・中間体サプライヤーの重複を避けた購買先の選定

#### 変異原性不純物への対応

- 精度の高い測定を行い、発生メカニズムを特定し、適切な対応を実施
- 最新の知見を活かした発生リスクの予測

### 原薬調達のリスク

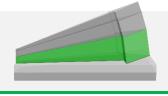
- 原薬の出荷・製造中止 (環境、天災、感染症、事故等によるリスク)
- 原薬製造所のGMP対応リスク (品質・製造に関する薬事規制上の齟齬)
- 変異原性不純物※1発生のリスク (ICH<sup>※2</sup>-M7ガイドラインに準拠)
- 出発原料・中間体のリスク (原薬の上流サプライヤーの重複)



※1:変異原性不純物:突然変異作用を及ぼす可能性があるためとトに対する懸念を引き起こす物質

※2: ICH: International Council for Harmonisation of Technical Requirements for Pharmaceuticals for Human Useの略称

# 生産能力/供給能力の向上



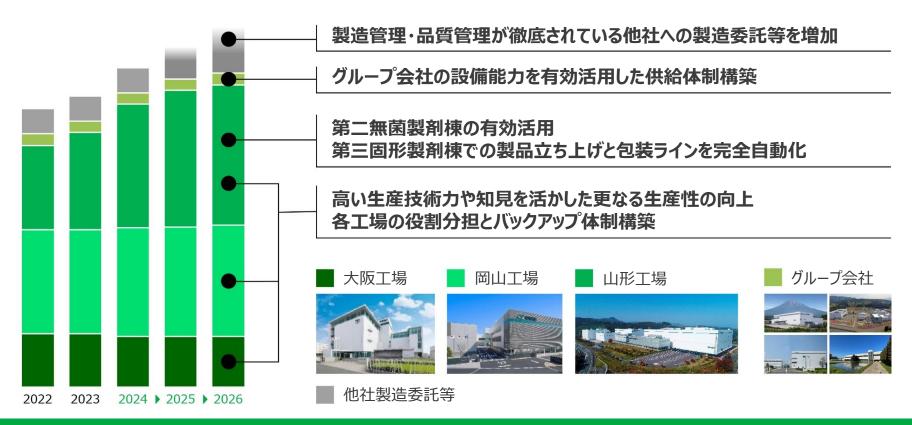
### 医薬品の安定供給のため 継続的に生産能力の向上を図る

東和薬品3工場 175億錠/Cap以上の生産能力

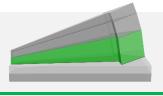
無菌製剤として3,300万V/Aの生産能力

※日本国内への供給能力で集計

※生産体制は工場建物の面積から計算した理論的な生産許容量、生産能力は設備ライン・品目・人員を踏まえた実現可能な生産量



### 東和式販売体制の最適化



#### 地域毎に最適な 情報提供体制の構築

地域ニーズを踏まえた情報提供の質の 向上および迅速化をすすめる

#### 地域毎に最適な 流通体制の構築

在庫水準の適正化をすすめ、需要に 最大限応えることで、安定供給に貢献 する

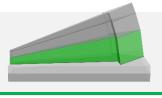
#### 持続可能な 販売戦略の実現

医薬品の価値に基づく価格での販売を 推進する

近年追補製品のシェア拡大を推進し、 収益性の改善を図る



# 有事の場合に備えた対応(予備対応力)



### 有事の際に増産できる柔軟な体制を平時から構築する



#### 原薬複数購買化

原薬の複数購買先を確保

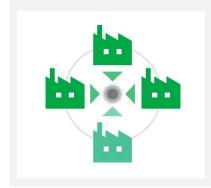
上流まで遡った品質管理



#### バックアップ生産体制

自社グループ内の複数拠点で 製造できる体制

他社への製造移管等による バックアップ体制構築



#### ライン稼働率の平準化

各品目/各工程で予備対応 力を持つために平時の設備稼 働率の平準化



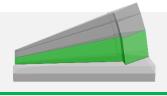
#### 適正在庫

調達・製造リードタイムやリスク に基づく適正な在庫の確保

タイムリーな流通状況の把握 と在庫コントロール

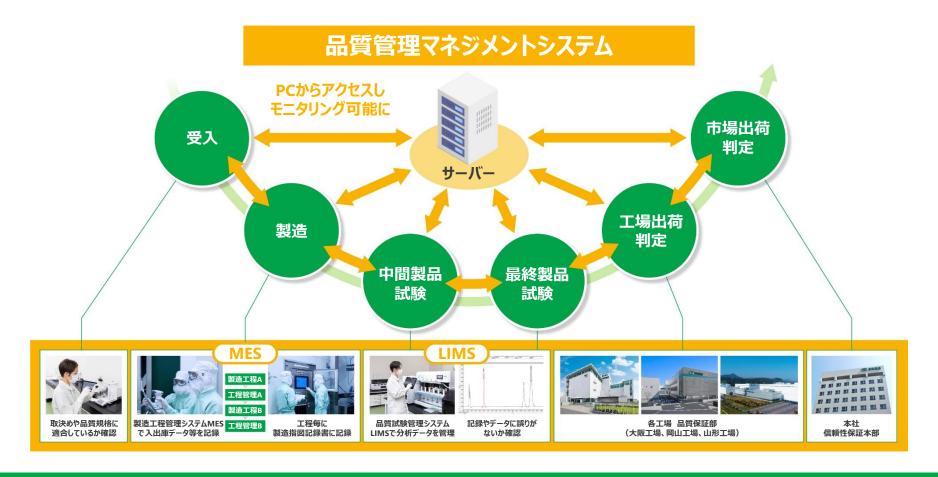


### 信頼性保証の維持と強化

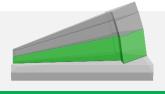


### マスターコントロール株式会社の品質管理マネジメントシステム "MasterControl Quality Excellence (Qx)

の導入により、医薬品の製造・製造販売に係るイベント管理や文書管理も含め、電子的に一元管理することが可能となる。 また、グループ会社の知識や経験も活用し、グローバルな視点も持ち、品質保証体制の維持・強化向上に取り組むことで、 人為的な誤りを未然に防止する。



### 信頼性保証の維持と強化



### 更なる東和品質の製造管理・品質管理の強化に関する取り組み

MESやLIMS、マスターコン トロールの導入により、デー タの信頼性を上げ、製造 01 管理・品質管理のさらなる 向上を目指す

品質と信頼性をグローバル レベルで確保するために、 技術やノウハウを蓄積・活 02 用し、日米欧の基準をクリ アする工場を目指す

グループ会社を含めた品質 部門の連携会議や合同事 例研究会を通してクオリティ カルチャーのさらなる醸成を 目指す

03

ニトロソアミン類の混入に対 しても、発生メカニズムや測 定方法・解決策を確立し、 東和品質の品質管理を強 化する

エビデンスに基づいた信頼 性の高い情報を積極的に 05 開示する

製造販売業者として、委 託先の製造管理・品質管 06 理に責任をもち、製造委託 先の強化・管理を徹底する



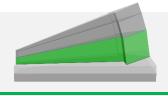
Towa INTとの議論風景



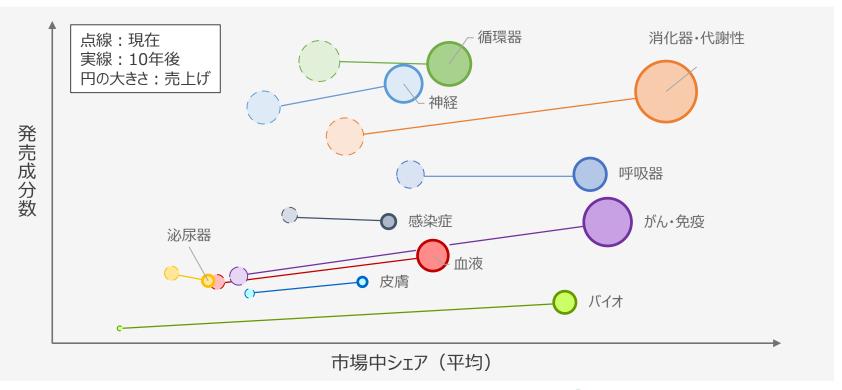
工場でのCAPA※事例研究会の風景

※CAPA: Corrective Action (是正措置) Preventive Action (予防措置)の略称

# 製品ポートフォリオの拡充



### 将来の薬物治療においても必要と考えられる医薬品を中心に品揃え



#### 低分子医薬品

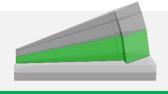
治療上重要な品目を引き続き開発しつつ、将来的な薬物治療の変化を踏まえ 品揃えする医薬品の適正化を図る

今後成長が見込まれる消化器・代謝性領域やがん・免疫領域を含む幅広い疾 患領域をターゲットとする

#### バイオシミラー (BS)

インフリキシマブBSの更なる市場シェア獲得と更なる品揃え拡充

# 情報開示の取り組み



### 東和品質の製品・サービスを安全・安心にお使いいただくために、 安定供給や製造管理・品質管理に係る情報を引き続き積極的に開示・発信する

#### [原薬製造国] 一覧の開示

※2024年2月時点

開示率

99%

委託先等への情報開示の許諾を引き続き交渉する

### [製品製造企業名] 一覧の開示

※2024年2月時点

開示率

97%

委託先等への情報開示の許諾を引き続き交渉する

#### 有効期間延長の 取り組み

※2024年5月時点

155品目

今後も継続的に取り組む

「ジェネリック医薬品の信頼性確保に関する対応について」(令和3年3月25日付)に基づく、製造販売承認書と製造実態の整合性にかかる一斉点検を実施

#### 東和薬品における 信頼性確保に向けた取り組み

〜試験担当者への現場 ヒアリング調査結果について〜 2023年11月28日発表 供給状況の開示

2024年度6月末 に更新予定

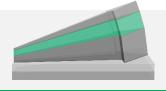


### 方針2

### 新規市場・新規事業の基盤確立とグループシナジーの実現

- ▶ 海外医薬品事業
- ▶ 新たな健康関連事業

# 海外市場に対する環境認識と必要な取り組み



#### 環境認識

#### 必要な取り組み

#### 要

米国/欧州

先進国を中心と した高齢化と共 に高まる医療費 の適正化

#### 米国

保険制度の違い 等で生じる医療 格差の拡大

#### 新興国

医薬品アクセス 向上へ向けた取 り組み

製品ポートフォリオの拡充とそれによる事 業地域の拡大

欧米以外の国や地域への販売も可能な 品質の製剤開発

#### 安定 供給

#### サプライチェーンの重要性

サプライヤーの地理的集中 (未知の感染症、紛争、災害 等に対するリスク増大)

#### 品質

医薬品品質をめぐる新たな規 制の設定や既存の規制の強化

国内外を含めた製造拠点(バックアップ) 体制含む)の検討

日米欧の規制に対する対応

発がん性が懸念されているニトロソアミン 類に対する問題への対応

#### 事業 継続性

価格競争による収益性の低下

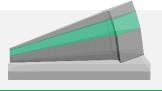
製品ライフサイクルが短くなる 傾向にある

原価改善策の実行

価格競争に巻き込まれにくい製品ポート フォリオの選定

※特に米国市場では、卸・薬局等の統合からなる大規模コンソーシアムのバイイング・パワー により価格競争が激化

### 海外医薬品事業における振り返り



#### 拡

Towa INT では、大型造粒機を用いた大量かつ効率的生産の強みを活かし、 B2Bビジネスを通じて事業地域の拡大に取り組んできた。

#### シナジー

コロナ感染症の収束後に人材交流、技術交流が進み始め、特にTowa INT の製造技術を活かした協働が効果として現れ始めた。

→日本市場向け製品(エソメプラゾールカプセル)について、EMA(欧州医薬品庁)や FDA(アメリカ食品医薬品局)の基準に準拠しているマルトレージャス工場での製造所追 加の承認を取得。日本市場に対する安定供給へ貢献できる体制(生産バックアップ体 制)が整ったとともに、大型造粒機を用いた大量かつ効率的生産により原価低減にも寄与。



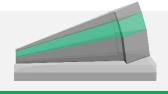
マルトレージャス工場(スペイン)

東和薬品グループとしてグローバルで開発する品目の検討が進展。

ニトロソアミン類に対する規制強化については、世界共通の課題。 東和薬品ではニトロソアミン類の生成メカニズム解明、分析法の開発に積極的 に取り組んでおり、グループ内で製品開発に貢献。



# 海外医薬品事業における方針



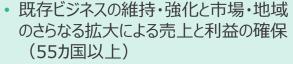
### 国際市場における東和薬品グループ製品へのアクセスを拡大 日本国発の優れたジェネリック医薬品の海外展開を目指す

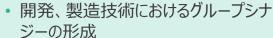
#### 第5期(2021-2023):基盤整備



- B2Bビジネスの拡大(39カ国へ進出)
- グローバル品の開発着手
- Towa INTの製造技術を活かした協働

### 第6期(2024-2026):規模の確保

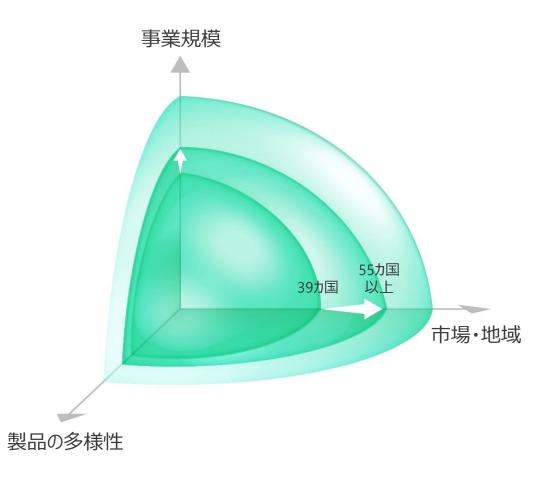




将来に向けて必要な研究開発・設備へ の投資

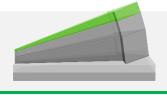
#### 第7期以降(2027~):拡大と多様化

- 製品ポートフォリオの拡充による成長
- 東和独自技術を活かした製品の開発
- グローバル牛産体制の構築

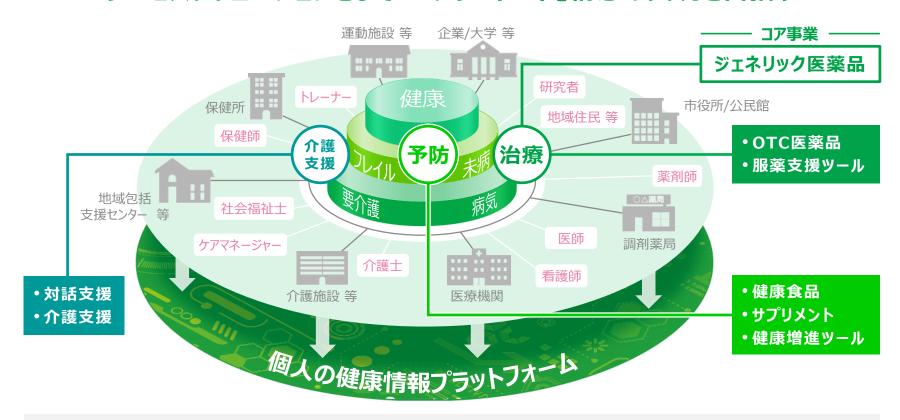


#### 03 第6期中期経営計画(2024-2026)

## 新規事業における取り組み



### システムの中心は健康・医療情報双方向連携サービス「ヘルスケアパスポート」となり、 サービスソリューションとして「エクサ・ポート」構想の実現を目指す



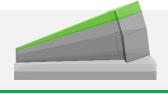
「ヘルスケアパスポート」を地域医療・健康情報連携 システム基盤として普及

Ⅰ地域包括ケアシステムへの貢献

健康維持・増進のための製品、サービスの更なる ラインナップの増加

【各グループ会社間、および既存事業とのシナジーを形成

# 三生医薬とのシナジー



### 東和薬品の強みと三生医薬の強みを活かし、SunshoMadeの 東和薬品オリジナル製品の共同開発、製造、販売を推進する

#### 国内健康食品

•健康補助食品

### 製品コンセプト

#### 東和品質

エビデンスに基づいた有効性や安全性の確保

#### 製剤技術

技術の融合 固形製剤×カプセル製剤

#### 訴求機能

フレイル対策、牛活習慣病など

### 海外

- ・シームレスカプセル
- •健康食品 •医薬品

#### 医薬品

・ユニオーブ®※・新規品

※ユニオーブ®の特徴 有効成分(原薬・化合物)を 含むゲルと不溶性微粒子の外層からなる被覆粒子

ニューアプリケーション

•日用雑貨

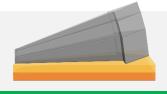


### 方針3

### 持続的成長を支えるサステナビリティ経営の強化と基盤の整備

- ▶ 技術イノベーションと製品価値の創出
- ▶ DX推進による業務変革
- ▶ 働きがいのある環境づくりと人財育成

# 技術イノベーションと製品価値の創出①



患者さんへの 付加価値の提供

口どけが良い、ざらつかない、苦くない、飲みやすい、 扱いやすい、品質が長く安定した薬の追求

安全・安心な製品の提供

社会課題への挑戦

新分野への挑戦に よる患者さんへの貢献

グループ会社のシナジーも含めた 新規技術の追求

### 第6期 技術イノベーション

- ・ニトロソアミン問題への挑戦
- ・球形晶析を含む分子制御技術と 製剤化プロセスの融合
- ・添加剤も含めたデザイン設計
- ・効率的なコーティング技術
- ·連続生産

- ・連続フロー精密合成
- ·PAT<sup>※1</sup>(プロセス分析)技術
- ・グループ会社との技術の融合
- ・iPS創薬によるドラッグ・リポジショニング
- ・更なる新規基盤技術の創出
- ・品質が長く安定した製剤の実現

生産の効率化による 安定供給体制の向上

スマートファクトリー※2の推進

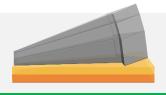
環境、働く人に優しい原薬・ 製剤の開発、生産体制

環境に優しいグリーン・ケミストリーを追求、 働く人に優しいケミカルハザードを追求

※1: PAT (プロセス分析): Process Analytical Technologyの略称

※2:スマートファクトリー:デジタル技術の活用によって業務プロセスの改革や生産性・品質の向上を継続的に行う工場のことを指します

# 技術イノベーションと製品価値の創出②

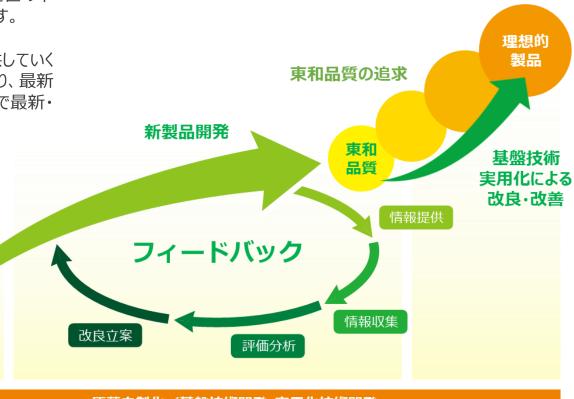


### 製品総合力No.1の製品づくりと東和品質の追求

製品総合力No.1の製品づくりとは、安心して お使いいただける「東和品質」の製品を世の中 に提供することを目的とした取り組みです。

これは徹底した品質管理のもと、提供していく 製品の確かな品質を保証するものであり、最新 の技術で改良・改善を重ね、その時々で最新・ 最高のものに更新していきます。

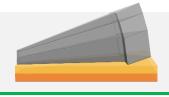
この取り組みを加速させるために 2024年4月に製品改良部を 新設しました。



原薬自製化/基盤技術開発·実用化技術開発

研究開発機能の強化・効率化

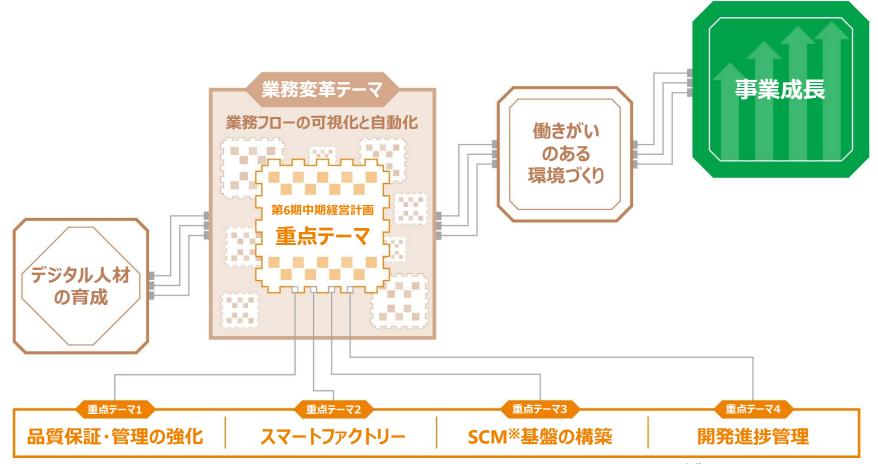
# DX推進による業務変革



担当組織とIT部門の連携によって デジタル人材を育成する

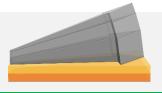
コア事業の安定供給や信頼性 保証に寄与する重点テーマに 優先して取り組む

DX推進による業務改善・変革の先に、 事業成長と働きがいのある環境づくりを 実現する



※SCM: Supply Chain Managementの略称

# 働きがいのある環境づくりと人財育成



こころの笑顔

人々の健康

# 東和薬品グループの社員の 「こころの笑顔」の実現

社員の心身が健やかであることはもちろん、 会社と社員、社員と社員はお互いを敬い、大切にし、 認め合い、支え合えるような関係性を構築する。

それぞれの社員ができるだけ長く東和薬品グループで 活躍することを願っており、働いていて良かったと思って もらえるような会社であり続ける。

### 事業戦略を 実現する人材力

事業戦略の実現に必要な 人材獲得・育成の推進

健康チャレンジや健康経営優良 法人認定による社員の健康増進 中期的な必要人員の明確化と 採用方針・運用の強化

### 社員の成長意欲 働きがいの最大化

やりがいをもって成長できる 環境の整備

人材研修センター の新設

キャリア形成 支援

各種人事制度 の変革

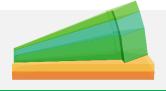
#### 多様性の推進

社会の変化に柔軟に対応し、 新たな付加価値を創造

多様な働き方に対応する 環境整備のより一層の推進

社員教育を通じて、お互い 高め合う環境づくりの推進

### 成長投資と財務健全性のバランスに向けた取り組み



国内ジェネリック医薬品の安定供給への 貢献を通じてさらなる成長を実現

資本コストを考慮し、投下資本利益率(ROIC) の向上に向けた取り組みを推進

### 持続的成長かつ健全な経営

#### 中計期間中の計数目標

加重平均資本コスト(WACC)を上回るROICの実現

#### 営業利益の改善

販売数量の増加とセールス ミックスの改善

原価、販売費および一般 管理費の最適化

#### 投資先選定の仕組み

新設する投資検討会によ る、資本コストを意識した 投資基準に基づく投資案 件管理の強化

#### 株主還元

▋安定配当

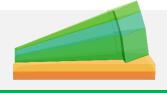
収益性や財政状態を考慮 し更なる拡充

#### 財務健全性

資本と有利子負債のバラ ンスを考慮

継続的なステークホルダーとの対話

# 資金配分計画



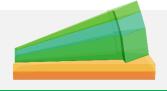
### 営業キャッシュフローを原資とした資金を投資や株主還元に配分していく

持続的成長に向けた、 研究開発 グローバル開発を含む 550億円以上 継続的な研究開発を実施 投資 キャッシュフロー 3年間の 設備投資 山形工場新棟をはじめとし 営業キャッシュフロー た設備投資 600億円以上 (研究開発費控除前) 1,500億円以上 配当 フリー・ キャッシュフロー 有利子負債 の返済など

キャッシュイン

キャッシュアウト

# 主要項目の計数目標



#### 売上高 (最終年度)

「連結〕

3,000億円達成

「単体]

2,000億円達成

単年度の売上高の達成

#### 研究開発費(累計)

「連結〕

550億円以上

必要とされる製品の品揃えと、 医療機関や患者さんからの 要望に応える製品の改良・改善

### 営業利益(累計)

「連結〕

680億円以上

持続的な成長のための投資 および株主還元のために、 期間累計の営業利益の達成

#### 設備投資(累計)

「連結〕

600億円以上

品質保証体制、安定供給体制を 維持・強化するための生産設備 および流通機能の強化・効率化への 投資として

### ROIC<sup>※</sup>(最終年度)

「連結〕

6%以上(のれん影響あり)

7%以上(のれん影響なし)

資本コストを意識し WACCを超えるROIC※を達成

#### 配当政策

#### 安定配当の実施

安定的な配当を基本とし、 企業価値の向上を見据えた 株主還元を図る

※ROIC計算式: 税引後営業利益÷(自己資本平均残高+有利子負債平均残高) のれん影響あり:外部開示ベースでの計算 のれん影響なし:内部管理ベースでの計算 将来予想に関連する記述については、目標や予測に基づいており、 確約や保証を与えるものではありません。 予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

お問い合わせ先

東和薬品株式会社 広報・IR部 ir@towayakuhin.co.jp TEL.06-6900-9102